

平成29年度  
**学校教育指導の重点  
 全体構想**  
 福島県教育庁県北教育事務所

# 力強く歩む子どもを育てる県北の教育

夢実現に向けてがんばる子どもたちに  
**生き抜く力の育成**



**第6次福島県総合教育計画**  
 基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かな  
 たくましい人づくり  
 基本目標  
 ○ 知・徳・体のバランスのとれた社会に貢  
 献する自立した人間の育成  
 ○ 学校、家庭、地域が一体となった教育の  
 実現  
 ○ 豊かな教育環境の形成

小 ・ 中 学 校 の 教 育	<b>確かな学力</b> 「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」 ★ 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実 【授業づくりの6つのポイント】 □ 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫 □ ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計 □ 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫 □ 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実 □ 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上 □ 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実 ★ 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進 □ 定着確認シート等を活用したショートサイクルのPDC Aサイクルの充実 □ 全国学力・学習状況調査等を活用したロングサイクルの取組の工夫 □ 学校課題克服のために一人一人の教職員の役割を明確にした取組の充実	<b>豊かなこころ</b> 「心が通う人間関係を築く子ども」 ★ 道徳教育の充実 □ 指導の重点を明確にした全体計画の作成 □ 多様な指導方法と子どもの心に響く授業展開の工夫 □ 道徳の時間の授業公開と学校間・異校種間の連携強化 ★ 生徒指導の充実 □ 子どもの的確な見取りと組織による予防的な取組の推進 □ 不登校やいじめ未然防止・早期対応のための具体的方策についての共通実践 □ 教育相談体制の充実とSC、SSWや関係機関等との連携 ★ 体験活動の充実 □ 地域の大人や異年齢集団との交流の充実 □ 自然体験活動や奉仕体験活動等、子どもの発達段階に応じた体験活動の充実 □ 職場体験等を通して、自己の生き方を考える機会の設定と充実	<b>健やかな体</b> 「進んで体力の向上と健康づくりに励む子ども」 ★ 進んで運動する態度の育成 □ 12年間を見通したバランスの取れた指導計画の作成 □ 子どもが主体的に学習する授業づくりと実質的な運動時間の確保 □ 体力向上推進計画書に基づく体力向上策の共通理解・共通実践 □ 授業以外の体育的活動（業間活動・部活動等）に対する組織的取組 ★ 健康で安全な生活を実践する態度の育成 □ 各教科等の特質に応じた保健学習・保健指導の充実 □ 給食指導の充実及び家庭や地域と連携した計画的な食育の推進 □ 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む安全指導の推進 □ 主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育・放射線教育の充実	<b>学級・学習集団づくり</b> ～安心感・存在感・向上心～ □ 相手を尊重しながら自分の意見を主張できる態度の育成 □ 一人一人のリーダー性が育まれる機会の確保 □ 学級経営方針の明確化と教師が互いに支え合う体制づくり □ プロセスを認め、奨励、称賛する教師の姿勢 □ 子ども同士が互いのよさや成長を認め合う場の設定 □ 全員が気持ちよく学ぶためのルールの明確化	<b>特別支援教育</b> ～「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進～ ★ 全教職員の連携による校(園)内支援体制の充実 □ チームによる支援体制の整備と活性化 ★ 一人一人のニーズに応じた指導の充実 □ 合理的配慮の提供と「個別の教育支援計画」の作成・活用 □ 「個別の指導計画」に基づく授業の評価・改善 □ 特別支援教育の視点を生かした環境設定や指導の工夫 ★ 集団とのかかわりを重視したよりよい友達関係の充実 □ 一人一人のよさや特性、違いを認め合う集団づくりの推進 □ ねらいを明確にした交流・共同学習の推進 ★ 学校、家庭、地域及び関係機関との連携 □ 学校間や関係機関との連携による一貫した支援の充実 □ 特別支援学校のセンタ－的機能等の積極的な活用による授業や支援の充実
	～5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえた保育の充実～ ★ 長期的・短期的な見通しをもった指導計画の作成・改善 □ 長期的計画と短期的計画との往還 □ 生活・発達・学びの連続性を踏まえた指導計画 ★ 主体的な活動が確保される保育の充実 □ 幼児期運動指針を踏まえた遊びの工夫 □ 教師の人的環境としての援助 □ 特別な支援が必要な子どもの実態に応じた指導の工夫 ★ 育ちつつある面やよさに目を向けた評価の工夫・活用 □ 次の手立てに生かす評価の工夫 □ 情報交換・意見交換による子どもの見取り				



※ □の項目は、自分の指導を振り返るためのチェック項目として活用してください。